

Casa Legato

Case/Buffer/Void coreによる多層構造で住環境と周辺環境に応答する

主要用途	:	長屋（11戸）
構造	:	木造
階数	:	地上3階
建築面積	:	196.13㎡
延床面積	:	480.04㎡

11世帯の集合住宅。

光と風の道となる【Void Core】、居住空間ゾーン【Space】、それを囲う外殻【Case】と廊下及び階段による【Buffer】が入れ子状に配置された計画。

近くに都電の線路が走り、住宅が密集して建ち並んでいる。そのため、密集地での他視点からのプライバシーの確保や騒音の軽減を図りながら、採光や通風といった環境を確保する必要があった。一方で、一般的な住宅では画一的な平面計画による賃貸住戸が多く、周辺環境に対応しきれていないことが多くある。今回は住まい手の生活スタイルに応じて利用できる自在性と、住人自身の住まいとして、個性や帰属性を保てる独自性も同時に求められた。

様々な条件に呼応したプライベート住空間の生成をテーマにした。計画は、外部環境との多層的な構成をもった生活空間によって、奥行きのある場を形成している。



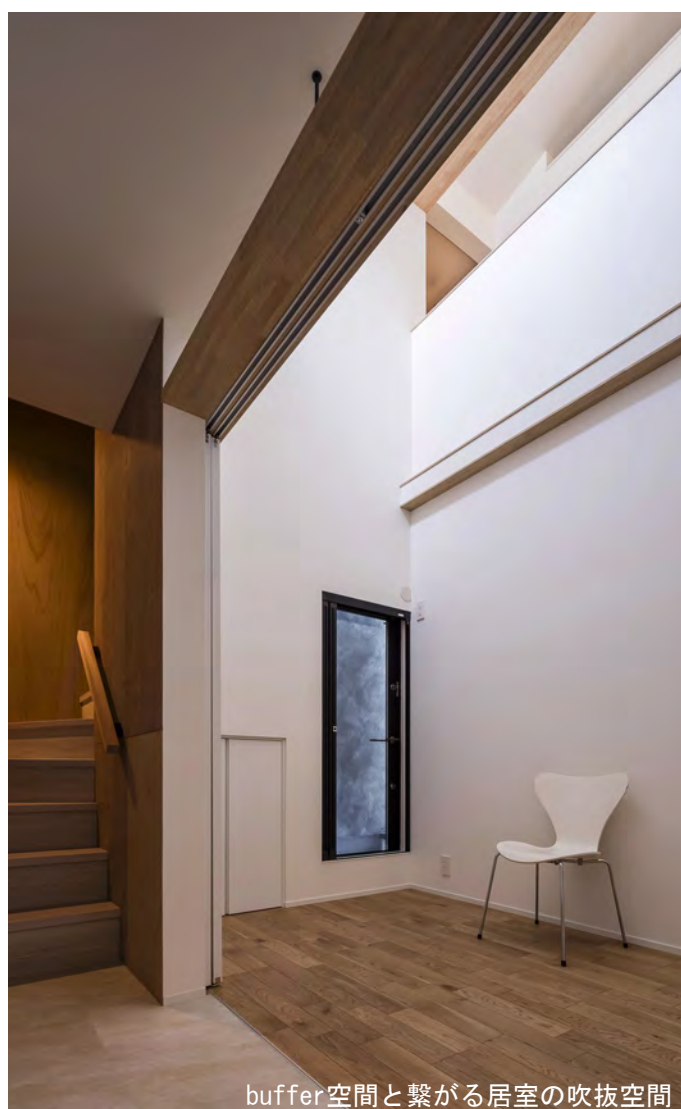
入れ子状の構成と【buffer】が外殻【case】に表出する



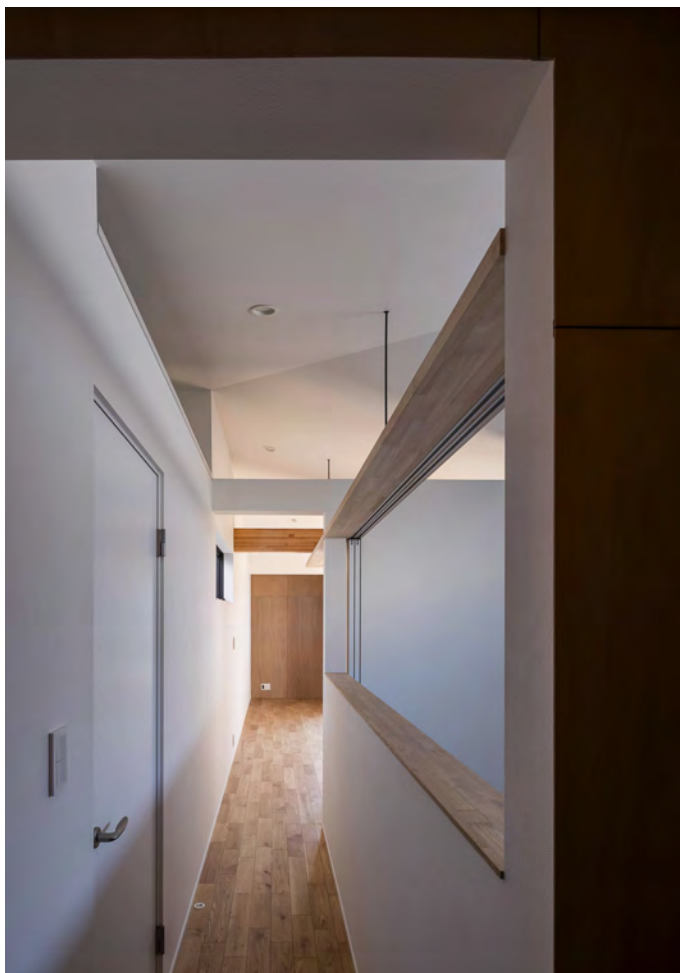
空間の多層構成によりプライバシーを保ちつつ、快適な環境を獲得した居住空間【Space】



case/buffer/space



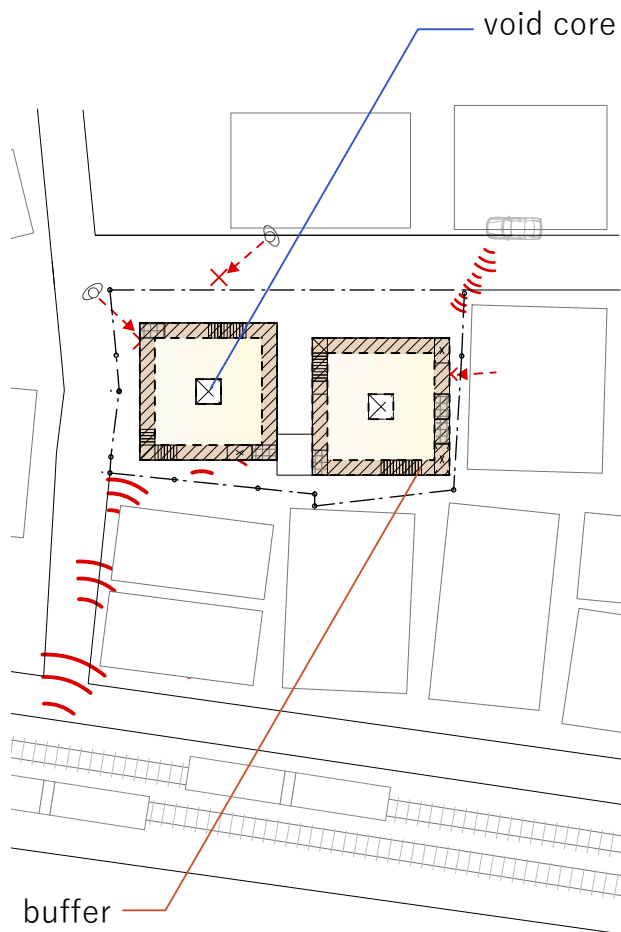
buffer空間と繋がる居室の吹抜空間



建築外周を巡る動線によるバッファー空間

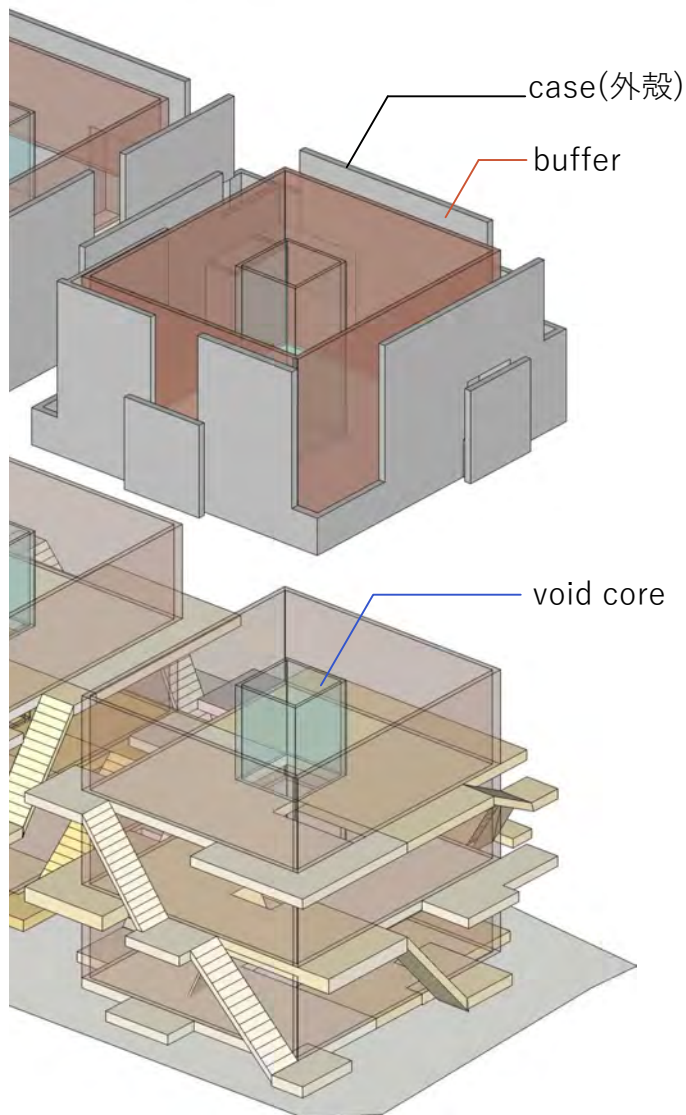
■ 外と内の緩衝空間 (Buffer)

近くに都電の線路が走り、住宅が密集して立ち並ぶ敷地に位置するため、外部との境界に外殻とバルコニーや動線を巡らし、bufferを設けることで、電車の音や近隣の視線を軽減する。



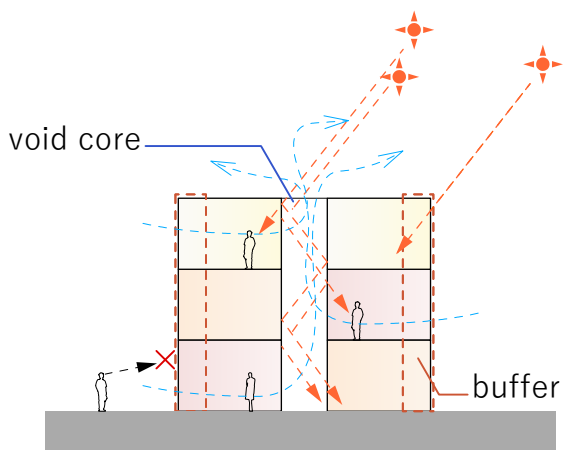
■ 多層構造

入れ子状の構成で、外からcase(外殻)/buffer/space/void coreと多層的空間を形成することで、プライバシーを確立し、void coreから採光や換気を確保する。



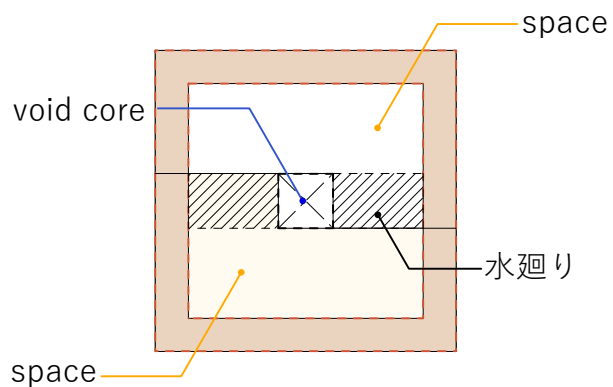
■ 光と風を取り込む中央空間 (Void Core)

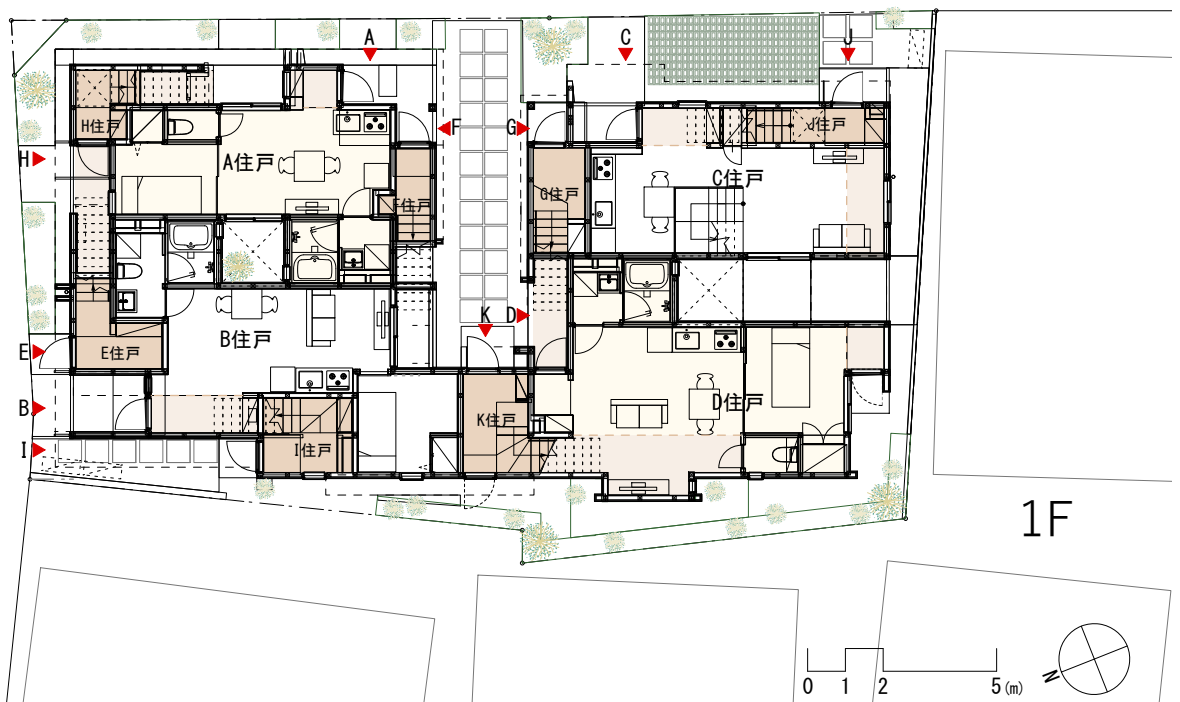
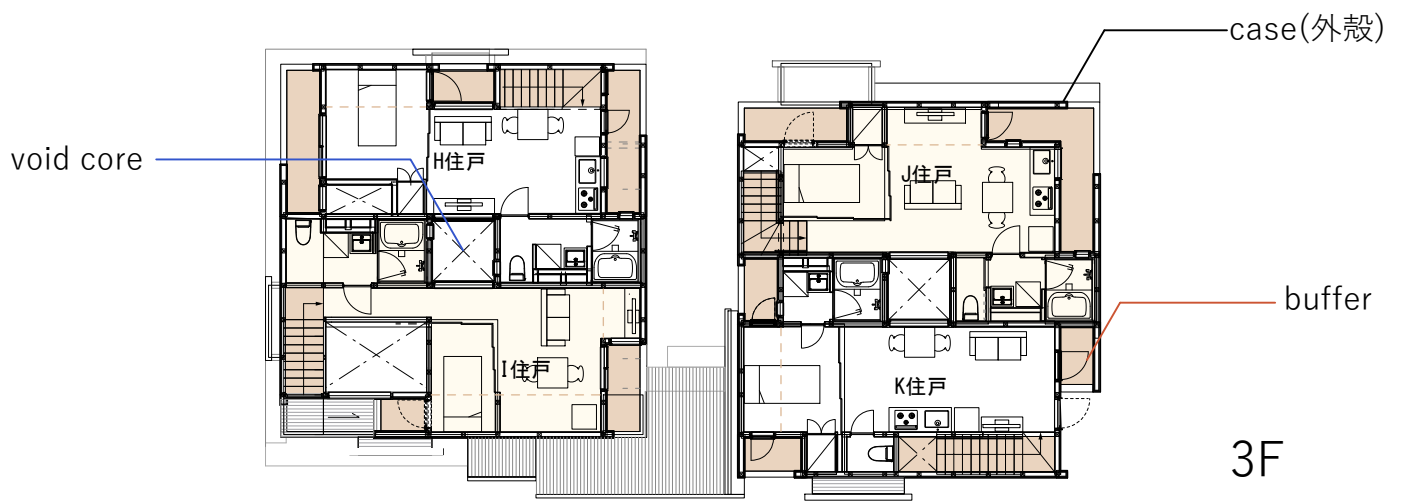
中央の吹き抜け空間は採光や換気の機能を持ち、住戸間の隣接長さを軽減する。



■ 吹き抜けを利用してプライバシーを確立

void coreと水廻りを住戸境に配置することで、隣住戸との生活音の干渉を低減する。







2つのボリュームの狭間に生まれたアプローチ